

「海のゆりかご」は機能したか

成長した魚の行方

これまでイシガレイ、クサフグの成長を中心に調査を進めてきた。しかし今回の調査では、干潟の各地で採集を試みたがいしガレイはゼロ、クサフグは2匹採集できたのみであった。採集したクサフグは3cm程度でこれまで調査対象となっていたものとは異なる個体群と考えられる。前回まで観察された個体群が成長して海へ出て行ったのか死に絶えてしまったのか判断することはできない。蒲生干潟が「海のゆりかご」としての機能を維持しているのであれば、来年も4月～7月の間に稚魚が観察されるであろう。調査は今後も継続するが、今年のデータを来年以降比較することによって干潟の状況を考察したい。



Fig.1 ポラ

大量のボラと鳥

これまでの調査でも数多くのボラを観察しているが、今回の調査でも3cm～20cmのボラを数多く観察することができた(Fig.1)。ボラの稚魚はサギの餌になっており(fig.2)、今回の調査では干潟で採餌するサギを観察することができた(Fig.3)。震災以前の干潟では隣接する松林にサギの群れが見られた(レポートNo.1参照)が、環境が変わってしまった現在は、干潟から離れた松林(キリンビール敷地内)で数多くのサギが見られた(Fig.4)。蒲生干潟付近からサギが離れて行かないのは、多数のボラの存在のためであるのかもしれない。



Fig.2 ボラを捕らえるサギ



Fig.3 干潟のサギ



Fig.4 サギの群れ

Fig.2 川村孝男氏提供

(佐藤 賢治)